

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2393300047		
法人名	有限会社 はっぴい		
事業所名	グループホーム はっぴい たけしま		
所在地	蒲郡市三谷町伊与戸1-2		
自己評価作成日	平成26年12月20日	評価結果市町村受理日	平成27年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2393300047-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2393300047-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あいち福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成27年1月30日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

砥神(とがみ)山の麓に位置し、少し歩けば三河湾が一望できる山海共に恵まれた環境にあります。建物は三河の材をふんだんに使った木造平屋建てで、食堂は吹き抜けで天窗があり明るくゆったりとした空間になっています。お祭り等の行事が盛んな地域で、それらへの参加や、近隣の学校の催し、運動会、近隣地域で行なわれる花火大会の鑑賞等を楽しんでいます。施設での定期的な行事以外に、喫茶店等へ出掛け、好きな飲み物、おやつを食べ、お喋りをして気分転換を図り、日々の生活の一環である買い物、家事、入浴等は一緒に楽しめるように支援しています。誕生日には、やりたい事、行きたい所の希望を聞きかなえられる様個別に対応しています。地域の方、ご家族共に支え合う関係を保ち毎日安心して過ごせるように支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所の近くに幼稚園があり、周りは閑静な住宅地が広がる中に位置し、落ち着いた色合いの木造作り平屋建は地域に溶け込んだ佇まいとなっている。山裾の木々を眺め、四季の移ろいを感じながら散歩や買い物を楽しめる環境にある。地域に根付き、「じっくり・しっかり・ゆっくり」を大切に、感謝の気持ちを忘れないように」の理念を背景に職員は、入居者それぞれが自分らしさを発揮し安心して楽しく過ごせるように、入居者に寄り添った支援に取り組んでいる。地域の伝統行事の獅子舞や黒ごまなどを事業所で行い、近隣の人も大勢参加し賑わいをみせ地域に溶け込んだ催しとなっている。入居者の希望を取り入れた献立や、敷地内の菜園で収穫した野菜を食材にして、日々、入居者と一緒に調理する手作りの食事は、グループホームの真髄となっている。ペンキ塗りや編み物、畑仕事など培った経験を生活の中で活かし、これまでの暮らしやその人の力を支えるようにしている。広くゆったりとした居間や廊下には、絵画や入居者の作品がさりげなく飾られ、アートギャラリーを思わせる。落ち着いた高級感ある調度品が設置されたりリビングで入居者は趣味に取り組んだり、会話を楽しんだりしてゆったりと過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「じっくり・しっかり・ゆっくり」の理念を職員の眼が付く場所に貼り出し常に意識をさせている。また月に1度の全員参加の会議では管理者中心に理念を復唱し理念共有を図り理念に沿った支援に努めている。	事業所の理念を目に付きやすい玄関や事務所に掲示している。毎月1回行われている会議で唱和し、「じっくり」「しっかり」「ゆっくり」という理念に沿って職員が共通理解を深め、ケアに繋げるように心がけている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、回覧板を持って行く際に近所の方と交流の機会を持ち、正月は獅子舞、地域の伝統行事の黒ごまに地域の方も招き一緒に参加して頂く等交流に努めている。	町内会に加入し積極的に地域の行事に参加している。日常的に散歩や買い物に出かけ地域の人たちと挨拶を交わしたり、近隣に住む人たちとふれあう機会を大切にしている。獅子舞や黒ごまなど地域の伝統行事を事業所で行い、近隣の人も大勢参加し賑わいをみせ、地域に溶け込んだ催しとなっている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設から3年が経過し、近隣の地域の方とも顔なじみになりグループホーム自体の内容の理解を得られるようになってきている。今後も認知症の理解や支援を得られるよう地域のコミュニケーションに努めていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議時に利用者の近況報告を行い、推進委員の皆様方からの意見を伺い運用の参考にさせて頂いている。会議時には毎回テーマを決め、グループホームをよりし知って頂くよう話し合いを行っている。	家族、民生委員、ボランティア、地域代表、東部地域包括支援センター、長寿課の職員の出席を得て2ヶ月に1回開催されている。事業所の現状報告や地域の情報が得られ、提案や意見等は記録されカンファレンスで協議し運営に活かされている。	入居者の集う居間で会議を実施しているので、入居者も一緒に参加できる工夫や、参加できなかった入居者家族に、はっぴいなど紙面を通して、会議の内容を知らせる機会を作ることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当部署の方にはホーム運営推進会議の委員として参加して頂いており、利用者の近況報告などの情報交換等色々な話が出来る関係を築けている。	運営推進会議の資料等の配布や更新手続きの折に、行政担当者に指導や助言を得ている。また、市主催の研修に積極的に参加したり、機会あるごとにサービスの内容を伝え、協力関係を深めるようにしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び全職員が身体拘束の判定基準を理解し、対応出来るようにしている。日中玄関は施錠の形をとっているが、希望時には外出が出来、開閉センサーを活用し出入りを確認できるようにしている。	身体拘束の研修や勉強会を行い意識を高め、スピーチロックや拘束感のないケアに努めている。一人で外出を希望する入居者には見守りながら支援をしている。夜間、歩行が不安定な方や排泄場所が分からない方には安全性に配慮した対応ができるように、家族に同意を得て靴や杖などに小鈴を使用している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待である「身体的・心理的虐待、性的虐待、介護・世話の放棄・放任、経済的虐待」の内容をしっかりと理解し、ホームでの会議にて管理者が中心に職員勉強会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は権利擁護とは、虐待防止事業、成年後見制度、地域福祉権利事業の3つで構成されていることを理解し、この制度について学ぶ機会を持ち、活用できるように実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の際は、家族に合わせた説明をじっくり時間をかけ分かりやすく説明を行うよう心掛けている。不安や疑問は説明時及び随時お答えして、理解を得るように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度の家族会で食事会や催し物を行い、家族、利用者と楽しく過ごしている。家族参加の会議や月に1度の支払い時に、計画書の説明、利用者、家族の意見・要望を伺い、運営に反映させている。	入居者からは日常の会話やケアの中で把握している。家族からは面会や行事等の時に意見や要望を聞き、運営に反映させている。また、家族には毎月のはっぴいだよりや介護記録を送付し情報として提供している。意見箱も常設している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回第2火曜日に全職員参加の会議を開き、連絡事項、入居者の状態について意見交換をしている。個々の課題については検討を対面で行っている。	日常の業務の中や休憩時間などに随時要望や提案を聞き、日誌に記入し、カンファレンスの中で話し合いをして運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者、職員とのコミュニケーションを常時とるよう心掛けている。研修会等に参加への声掛け、人間関係、業務体系など各自が向上心を持って働きやすい環境づくりを心掛け努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ベテラン職員が新人職員を指導教育できるよう体制作りを心掛けている。問題発生時にはその場において指導が出来る環境作りをしている。研修にはベテラン、新人職員全てが出来る限り参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地域のグループホーム連絡協議会に加入しており、積極的に参加している。近隣のグループホームの行事に参加させて頂いたり、当施設の行事に参加させて頂いたりと交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時本人とのコミュニケーションを図りながら、それまでの生活状況、不安、困っていること、要望を伺うことで不安を軽減し、利用者が安心して利用開始が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談は十分な時間を確保し、困っていること、不安、要望等を伺い、家族の方が理解し、納得できるまで説明を行うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入初期の状況をしっかりと把握し、「その時」グループホームで出来る事、他のサービス利用を踏まえて支援出来る事は何かを見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が行うのではなく、利用者と一緒に「一緒に行く」事を実行している。職員が利用者から学ぶ事、教えられる事が多くあり、お互い支え合って生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族といつでも連絡可能な体制をとり、本人が必要としている物を届けて頂いたり、病院受診時には家族と一緒にいく事が出来るように配慮している。職員が付き添った場合は家族に結果報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て馴染みの美容院や住んでいた場所への外出、本人が会いたい人、行きたい場所を大切に、今までの生活関係が途切れないよう支援している。	入居前の生活歴を聞き取り、ケアに活かしている。馴染みの美容院や自宅や友達の家に出かけたりしている。近くの神社、食材を買いに行くスーパーやコンビニ、外食に出かける店は新しい馴染みとなっている。ペンキ塗りや編み物、畑仕事など培った経験を活かすようにして、これまでの経験や馴染みの場所や人との関係が途切れないような支援を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が施設内で生活していく中で、お互いの出来る事や出来ない事を認め合い、言動、行動を通し利用者同士が関わり支え合う事が出来るような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までに退去された方が数名いるが、近隣であるため会う機会があり近況を知ることが出来るため、必要時には相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントにてそれまでの生活歴や趣味を伺っている。日々の生活で知り得た情報を共有し思いを受け止めるように心掛け、自分の思いを表現することが難しい方の思いも受け取る努力をしている。	傾聴の姿勢を基本として、日常の入居者との関わりや会話、表情などからくみ取ったり、ケアの中から感じ取ったりしている。職員間で日常的に情報交換して思いの把握に努め、ケアに繋げている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人、家族からこれまでの生活歴、生活環境、サービス利用等の経過の話等を伺うと共に、事業所からも情報を提供している。知り得た情報はファイルし、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員個々で利用者の生活の状況を把握しながらPC入力にて記録、申し送りを随時行い情報の共有をしている。すぐに確認が必要なことは事務所の申し送りノートに記入、サインチェックを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員の担当制をとり、利用者の状態を把握、カンファレンス時に職員間で話し合い情報の共有をしている。本人、家人共に話を伺い、その思いや希望を受け止め、現状に即した介護計画を作成している。	本人や家族が参加して3カ月に1度、介護計画の見直しが行われている。状態に応じて医師も交えて作成することもある。担当制でケアをしているが、どの職員も入居者の状態を把握し、同じケアができるようにしている。また、状態、状況の変化に応じて随時見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録は、食事量、バイタル、排泄、日々の様子をPC入力にて職員間で情報共有を図っている。個々のケアプラン実施表で毎日チェックを行い、ケアプランの見直しや立案に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の状況に応じて、医療機関への受診、外出支援、ボランティアの受け入れ、地域住民との交流場所として施設の提供、保育園、小学校、お祭り等の地域行事への参加を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にお抹茶、読み聞かせ等のボランティア、訪問理容が来ている。保育園、小学校との交流、魚市場への買い出し、消防と協力しての防災訓練時には近隣住民の方へも協力を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4Wに1度、主治医の訪問診療を受けている。かかりつけ医以外の受診、通院は出来るだけ家族の協力をお願いしているが、状況に応じて職員が付き添い適切な医療を受ける事が出来るよう支援している。	入所時にかかりつけ医、提携医の希望を聞いて選んで頂いている。内科の訪問診療は4週に1度あり、主治医の診療を受けている。受診に関わる情報や薬の取り扱いについては職員間で共有し、適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、看護職員に利用者の心身状態を報告し、必要に応じて看護、適切な受診へと繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された時は面会に伺って状態を把握し、病院関係者と情報交換を行っている。退院後施設に戻られた時に、利用者が安心して生活できるように、本人、家族と話をする機会を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には本人の状態や介護内容の説明を行い、終末期を迎えた際の看取りや延命治療について確認を行っている。緊急時に対応できるように医療機関と連絡を取り、職員間でも話し合いを随時行っている。	重度化や終末期に向けた方針については入居時に家族に説明をし同意を得ている。昨年、家族の要望により、ホームで終末を迎えることになったが、医療行為や医師との連携、職員のメンタルケア、入居者や家族への具体的な支援など、課題への取り組みを話し合っている。	看取りについて事業所として、出来ること出来ないことを十分に検討し、事業所としての方針を打ち出し、早い段階から本人や家族に説明をして同意を得ることが望まれる。また、意思確認の機会を定期的に行い、医師など地域の関係者とともにチームで看取り支援に取り組むことを期待したい。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故が起きた際のマニュアルを作成し確認、すぐに対応出来るようにしている。勉強会にて事例検討を行い原因を究明、随時マニュアルの見直しを図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応マニュアルを作成し、職員全員に周知を図っている。年2回の防災訓練、避難訓練を行い、マニュアルの見直しを図っている。近隣にも依頼文を配布し協力を仰いでいる。	防災計画についての指導も受け、消防署の立会いのもとに年2回、昼、夜間の火災を想定した訓練を実施し好評を得ている。訓練時の課題はすぐに検討し運営に反映している。水、食品等備蓄品のチェックリストも整備されている。近所にチラシで訓練時の応援をお願いしている。	運営推進委員会等で地域との協力体制について具体的な視点で話し合い、地域との協力体制を築いていくことを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊厳の気持ちを持った対応を心掛けている。利用者個々の人格を尊重し、その人に応じた言葉掛け、対応を行っている。	一人ひとりに親しみを持つ様に、呼称は入居者がどのように呼んでほしいかを決めてもらい対応している。誇りやプライバシーを損ねないよう声かけは耳元で行ったり、その人の良さを知るように心がけている。また、「ありがとう」など感謝の気持ちを大切に言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の思い、希望を自由に出し自己決定が出来る環境作りに努めている。それらが難しい方は、表情、仕草等からその思いを汲み取る事に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れがあるがそれにとらわれる事はなく、一人ひとりの希望に可能な限り沿った、柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には、帽子、スカーフ、口紅等のお洒落を楽しんで頂いている。自分で行う事が難しい方はさりげないアドバイスをしながら本人と一緒に服選び等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる喜びを得られるよう、利用者に食べたい物を聞きメニューを作成している。利用者の出来る範囲で職員と一緒に買い物、食事準備、後片付けを行っている。	入居者の希望を取り入れた献立や、敷地内の菜園で収穫した野菜を食材にして、手作りの食事を用意している。入居者は、買い物や調理、盛り付け、配膳や食器洗い等できる事を職員と一緒にやっている。ご飯やパンの選択や梅干しやふりかけなどを取り入れ、食べる楽しみが持てるようにしている。職員も一緒に会話をしながら楽しく食事をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、おやつは、個々に合った量、形態で提供している。起床時、入浴時の水分補給、自己管理が可能な方はポットを用意しお茶を提供、毎日交換をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、難しい方は職員が付き添っている。口腔状態により歯間ブラシ、クルリーナ等を利用し口腔内清潔保持に努めている。夜間は義歯を外し定期的に義歯、口腔ケア用品の消毒を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ずつの排泄パターンを把握する為に排泄チェック表を活用し個々に応じた支援を行っている。適切な衛生用品の使用をアドバイスし、数名の方は紙パンツから布パンツへ移行されている。	座位で排泄できるような支援に力かけ、一人ひとりに寄り添い、素振りを見ながら誘導をしている。排泄チェック表を基にそれぞれのパターンを把握し、きめ細やかなケアに努めている。夜間もさりげなく声かけをするように努めている。ヒートショック対策として、便座の横や高所からのヒータが設置している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬の服用においては排便回数、量、形状を把握し服薬量を変えている。繊維質の多い食材を取り入れた献立の利用、こまめな水分補給、必要に応じて腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間、場所の設定はあるが、個々の状況に応じて柔軟に対応し、無理強いないようにしている。ゆず湯菖蒲湯等、季節感を楽しんで頂けるような工夫をしている。	2日に1度、午後の時間帯で希望に合わせて入浴をしている。季節によっては毎日、午前、夜に入浴する入居者もいる。入浴介助は一人ひとりに合わせた対応をしている。既往症などにより個人用の石鹸やタオル、足ふきタオルは個人用とするなど、きめ細やかな対応をしている。入浴を拒否する場合は、気分転換を図り、隣のユニットの風呂をすすめるようにしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的に布団の消毒、布団干し、寝具の洗濯を行い、空調はエアコン以外に個々の希望に応じて扇風機、電気毛布、湯たんぽを使用、また希望に応じて雨戸の利用、昼寝等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋のファイルを作成し、職員全員が常時確認出来るようにしている。服薬時には、名前、日にち、時間を読み上げ本人と共に確認、きちんと服用されたか見届け、服用後は経過観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の能力に応じた、掃除、家事を行っている。敷地内に菜園があり、利用者と一緒に収穫を楽しんでいる。カラオケ、ボランティアによるお茶会、読み聞かせ、季節行事、外食、温泉等を楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	シルバーカー、車椅子等も利用し散歩、回覧板配布、近くのコンビニに出かけている。スーパー、魚市場等へ食材や個人の希望の物を買っていく出かけた。なじみの美容院、誕生月には希望の場所に行かされている。	天候の良い日には四季の移ろいを感じながら職員と一緒に散歩したり、敷地内の野菜を楽しみながら収穫している。花見やみかん狩り、紅葉狩、蛍や花火見物などに出かけている。誕生日外出は、馴染みだった喫茶店や鰻屋、甘味所など個々の希望に応じて出かけている。毎日のスーパーへの買い物は欠かせない外出となっている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方は家族と相談の上、少額の現金を自己管理されている。買い物に出かけた際に欲しい物を買われ、個々の能力に応じて支払いをされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には、常識範囲の時間内で電話を掛けて頂いている。年賀状、葉書を書いたり、代筆にて交流が持てるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、利用者に刺激を与えないよう落ち着いた風景画、写真、書道、置物等を飾っている。ホール、居室、浴室はエアコン、温湿度計による空調管理、トイレは温風ヒーターを設置し温度管理を行っている。	吹き抜けの高い天窓がある食堂兼居間は、広々として開放的な空間で、ワンフロアの共用スペースとなっており、入居者の動きや気配がよく見渡せるようになっている。入居者は、居間のソファにゆっくり腰を掛けテレビを見たり、編み物を楽しんでいる。廊下には季節を感じさせる作品が額に入れ飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには利用者全員が座ることの出来るようにソファを設置、利用者同士が楽しく会話が出来、テレビを観ながらゆっくり出来るように配慮してある。ホールの椅子は食事以外は誰が座っても良い事になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の慣れ親しんだベッド、家具を持って来て頂き可能な限り本人の希望に沿った配置をしている。ベッドは本人の身体状況に応じて本人、家族と相談の上、福祉用具店のレンタルベッドに変更している。	自宅で使用していたものを持ち込んで安心できるスペースを確保している。暖簾、チェスト、ベット等入居者の状態に合わせて対応している。また、家族が希望する小物や写真を飾って居心地良く過ごせるように工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る範囲で掃除、食事準備、洗濯物片付け等に参加して頂いている。建物内の移動は、常にスタッフがお互いに声掛け見守りを行い、怪我など事故のないように安全面に気を付けている。		

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	2393300047		
法人名	有限会社 はっぴい		
事業所名	グループホーム はっぴい おおしま		
所在地	蒲郡市三谷町伊与戸1-2		
自己評価作成日	平成26年12月20日	評価結果市町村受理日	平成27年3月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2393300047-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022">http://www.kaigokensaku.jp/23/index.php?action_kouhyou_detail_2014_022_kani=true&amp;JigyosyoCd=2393300047-00&amp;PrefCd=23&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人あい福祉アセスメント		
所在地	愛知県東海市東海町二丁目6番地の5 かえでビル 2階		
訪問調査日	平成27年1月30日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

砥神(とがみ)山の麓に位置し、少し歩けば三河湾が一望できる山海共に恵まれた環境にあります。建物は三河の材をふんだんに使った木造平屋建てで、食堂は吹き抜けて天窓があり明るくゆったりとした空間になっています。お祭り等の行事が盛んな地域で、それらへの参加や、近隣の学校の催し、運動会、近隣地域で行なわれる花火大会の鑑賞等を楽しんで頂いています。施設での定期的な行事以外に、喫茶店等へ出掛け、好きな飲み物、おやつを食べ、お喋りをして気分転換を図り、日々の生活の一環である買い物、家事、入浴等は一緒に楽しめるように支援しています。誕生日には、やりたい事、行きたい所の希望を聞きかなえられる様個別に対応しています。地域の方、ご家族共に支え合う関係を保ち毎日安心して過ごせるように支援しています。

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

事業所の近くに幼稚園があり、周りは閑静な住宅地が広がる中に位置し、落ち着いた色合いの木造作り平屋建は地域に溶け込んだ佇まいとなっている。山裾の木々を眺め、四季の移ろいを感じながら散歩や買い物を楽しめる環境にある。地域に根付き、「じっくり・しっかり・ゆっくり」を大切に、感謝の気持ちを忘れないように」の理念を背景に職員は、入居者それぞれが自分らしさを発揮し安心して楽しく過ごせるように、入居者に寄り添った支援に取り組んでいる。地域の伝統行事の獅子舞や黒ごまなどを事業所で行い、近隣の人々も大勢参加し賑わいをみせ地域に溶け込んだ催しとなっている。入居者の希望を取り入れた献立や、敷地内の菜園で収穫した野菜を食材にして、日々、入居者と一緒に調理する手作りの食事は、グループホームの真髄となっている。ペンキ塗りや編み物、畑仕事など培った経験を生活の中で活かし、これまでの暮らしやその人の力を支えるようにしている。広くゆったりとした居間や廊下には、絵画や入居者の作品がさりげなく飾られ、アートギャラリーを思わせる。落ち着いた高級感ある調度品が設置されたリビングで入居者は趣味に取り組んだり、会話を楽しんだりしてゆったりと過ごしている。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「じっくり・しっかり・ゆっくり」の理念を職員の眼が付く場所に貼り出し常に意識をさせている。また月に1度の全員参加の会議では管理者中心に理念を復唱し理念共有を図り理念に沿った支援に努めている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩、回覧板を持って行く際に近所の方と交流の機会を持ち、正月は獅子舞、地域の伝統行事の黒ごまに地域の方も招き一緒に参加して頂く等交流に努めている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	開設から3年が経過し、近隣の地域の方とも顔なじみになりグループホーム自体の内容の理解を得られるようになってきている。今後も認知症の理解や支援を得られるよう地域のコミュニケーションに努めていく。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議時に利用者の近況報告を行い、推進委員の皆様方からの意見を伺い運用の参考にさせて頂いている。会議時には毎回テーマを決め、グループホームをよりし知って頂くよう話し合いを行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当部署の方にはホーム運営推進会議の委員として参加して頂いており、利用者の近況報告などの情報交換等色々な話が出来る関係を築けている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	管理者及び全職員が身体拘束の判定基準を理解し、対応出来るようにしている。日中玄関は施錠の形をとっているが、希望時には外出が出来、開閉センサーを活用し出入りを確認できるようにしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待である「身体的・心理的虐待、性的虐待、介護・世話の放棄・放任、経済的虐待」の内容をしっかりと理解し、ホームでの会議にて管理者が中心に職員勉強会を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	管理者、職員は権利擁護とは、虐待防止事業、成年後見制度、地域福祉権利事業の3つで構成されていることを理解し、この制度について学ぶ機会を持ち、活用できるように実施している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約または改定等の際は、家族に合わせた説明をじっくり時間をかけ分かりやすく説明を行うよう心掛けている。不安や疑問は説明時及び随時お答えして、理解を得るように心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	年に1度の家族会で食事会や催し物を行い、家族、利用者と楽しく過ごしている。家族参加の会議や月に1度の支払い時に、計画書の説明、利用者、家族の意見・要望を伺い、運営に反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月1回第2火曜日に全職員参加の会議を開き、連絡事項、入居者の状態について意見交換をしている。個々の課題については検討をし対応を行なっている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者、職員とのコミュニケーションを常時とるよう心掛けている。研修会等に参加への声掛け、人間関係、業務体系など各自が向上心を持って働きやすい環境づくりを心掛け努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ベテラン職員が新人職員を指導教育できるよう体制作りを心掛けている。問題発生時にはその場において指導が出来る環境作りをしている。研修にはベテラン、新人職員全てが出来る限り参加できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	県や地域のグループホーム連絡協議会に加入しており、積極的に参加している。近隣のグループホームの行事に参加させて頂いたり、当施設の行事に参加して頂いたりと交流を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	面談時本人とのコミュニケーションを図りながら、それまでの生活状況、不安、困っていること、要望を伺うことで不安を軽減し、利用者が安心して利用開始が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族との面談は十分な時間を確保し、困っていること、不安、要望等を伺い、家族の方が理解し、納得できるまで説明を行うように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス導入初期の状況をしっかりと把握し、「その時」グループホームで出来る事、他のサービス利用を踏まえて支援出来る事は何かを見極めて対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が行うのではなく、利用者と一緒に「一緒に行く」事を実行している。職員が利用者から学ぶ事、教えられる事が多くあり、お互い支え合って生活している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族といつでも連絡可能な体制をとり、本人が必要としている物を届けて頂いたり、病院受診時には家族と一緒にいく事が出来るように配慮している。職員が付き添った場合は家族に結果報告を行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力を得て馴染みの美容院や住んでいた場所への外出、本人が会いたい人、行きたい場所を大切に、今までの生活関係が途切れないよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者が施設内で生活していく中で、お互いの出来る事や出来ない事を認め合い、言動、行動を通し利用者同士が関わり支え合う事が出来るような支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	現在までに退去された方が数名いるが、近隣であるため会う機会があり近況を知ることが出来るため、必要時には相談に応じている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時のアセスメントにてそれまでの生活歴や趣味を伺っている。日々の生活で知り得た情報を共有し思いを受け止めるように心掛け、自分の思いを表現することが難しい方の思いも受け取る努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、本人、家族からこれまでの生活歴、生活環境、サービス利用等の経過の話や共に、事業所からも情報を提供している。知り得た情報はファイルし、職員間で共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員個々で利用者の生活の状況を把握しながらPC入力にて記録、申し送りを随時行い情報の共有をしている。すぐに確認が必要なことは事務所の申し送りノートに記入、サインチェックを行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	各職員の担当制をとり、利用者の状態を把握、カンファレンス時に職員間で話し合い情報の共有をしている。本人、家人共に話を伺い、その思いや希望を受け止め、現状に即した介護計画を作成している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の介護記録は、食事量、バイタル、排泄、日々の様子をPC入力にて職員間で情報共有を図っている。個々のケアプラン実施表で毎日チェックを行い、ケアプランの見直しや立案に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族や本人の状況に応じて、医療機関への受診、外出支援、ボランティアの受け入れ、地域住民との交流場所として施設の提供、保育園、小学校、お祭り等の地域行事への参加を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	定期的にお抹茶、読み聞かせ等のボランティア、訪問理容が来ている。保育園、小学校との交流、魚市場への買い出し、消防と協力しての防災訓練時には近隣住民の方へも協力を依頼している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	4Wに1度、主治医の訪問診療を受けている。かかりつけ医以外の受診、通院は出来るだけ家族の協力をお願いしているが、状況に応じて職員が付き添い適切な医療を受ける事が出来るよう支援している。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は、看護職員に利用者の心身状態を報告し、必要に応じて看護、適切な受診へと繋げている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院された時は面会に伺って状態を把握し、病院関係者と情報交換を行っている。退院後施設に戻られた時に、利用者が安心して生活できるように、本人、家族と話をする機会を設けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	家族には本人の状態や介護内容の説明を行い、終末期を迎えた際の看取りや延命治療について確認を行っている。緊急時に対応できるように医療機関と連絡を取り、職員間でも話し合いを随時行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故が起きた際のマニュアルを作成し確認、すぐに対応出来るようにしている。勉強会にて事例検討を行い原因を究明、随時マニュアルの見直しを図っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の対応マニュアルを作成し、職員全員に周知を図っている。年2回の防災訓練、避難訓練を行い、マニュアルの見直しを図っている。近隣にも依頼文を配布し協力を仰いでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として尊厳の気持ちを持った対応を心掛けている。利用者個々の人格を尊重し、その人に応じた言葉掛け、対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者が自分の思い、希望を自由に出し自己決定が出来る環境作りに努めている。それらが難しい方は、表情、仕草等からその思いを汲み取る事に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	1日の基本的な流れがあるがそれにとらわれる事はなく、一人ひとりの希望に可能な限り沿った、柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時には、帽子、スカーフ、口紅等のお洒落を楽しんで頂いている。自分で行う事が難しい方はさりげないアドバイスをしながら本人と一緒に服選び等を行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食べる喜びを得られるよう、利用者に食べたい物を聞きメニューを作成している。利用者の出来る範囲で職員と一緒に買い物、食事準備、後片付けを行っている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、おやつは、個々に合った量、形態で提供している。起床時、入浴時の水分補給、自己管理が可能な方はポットを用意しお茶を提供、毎日交換をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを行い、難しい方は職員が付き添っている。口腔状態により歯間ブラシ、クルリーナ等を利用し口腔内清潔保持に努めている。夜間は義歯を外し定期的に義歯、口腔ケア用品の消毒を行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ずつの排泄パターンを把握する為に排泄チェック表を活用し個々に応じた支援を行っている。適切な衛生用品の使用をアドバイスし、数名の方は紙パンツから布パンツへ移行されている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘薬の服用においては排便回数、量、形状を把握し服薬量を変えている。繊維質の多い食材を取り入れた献立の利用、こまめな水分補給、必要に応じて腹部マッサージを行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴時間、場所の設定はあるが、個々の状況に応じて柔軟に対応し、無理強いしないようにしている。ゆず湯菖蒲湯等、季節感を楽しんで頂けるような工夫をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	定期的に布団の消毒、布団干し、寝具の洗濯を行い、空調はエアコン以外に個々の希望に応じて扇風機、電気毛布、湯たんぽを使用、また希望に応じて雨戸の利用、昼寝等を行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋のファイルを作成し、職員全員が常時確認出来るようにしている。服薬時には、名前、日にち、時間を読み上げ本人と共に確認、きちんと服用されたか見届け、服用後は経過観察を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の能力に応じた、掃除、家事を行っている。敷地内に菜園があり、利用者と一緒に収穫を楽しんでいる。カラオケ、ボランティアによるお茶会、読み聞かせ、季節行事、外食、温泉等を楽しまれている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	シルバーカー、車椅子等も利用し散歩、回覧板配布、近くのコンビニに出かけている。スーパー、魚市場等へ食材や個人の希望の物を買いにいかれたり、なじみの美容院、誕生月には希望の場所に行かされている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	可能な方は家族と相談の上、少額の現金を自己管理されている。買い物に出かけた際に欲しい物を買われ、個々の能力に応じて支払いをされている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望時には、常識範囲の時間内で電話を掛けて頂いている。年賀状、葉書を書いたり、代筆にて交流が持てるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は、利用者刺激を与えないよう落ち着いた風景画、写真、書道、置物等を飾っている。ホール、居室、浴室はエアコン、温湿度計による空調管理、トイレは温風ヒーターを設置し温度管理を行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには利用者全員が座ることの出来るようにソファを設置、利用者同士が楽しく会話が出来、テレビを観ながらゆっくり出来るように配慮してある。ホールの椅子は食事以外は誰が座っても良い事になっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の慣れ親しんだベッド、家具を持って来て頂き可能な限り本人の希望に沿った配置をしている。ベッドは本人の身体状況に応じて本人、家族と相談の上、福祉用具店のレンタルベッドに変更している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	個々の出来る範囲で掃除、食事準備、洗濯物片付け等に参加して頂いている。建物内の移動は、常にスタッフがお互いに声掛け見守りを行い、怪我など事故のないように安全面に気を付けている。		